



秀吉のキリスト教禁止令

「サビエル展を開催して⑦」

大学を卒業して五十一年目の昨年、久しぶり

に同窓会に出席した。今年には欠席したら、昨年

年会った友人から「君と会えるのを楽しみにしていたのに残念」という手紙とともに一冊の雑誌が送られてきた。

に会った時、地元紙に「巡礼の道」を書いてあること、それをホームページに転載していることを知らせた。彼はそれから継続的に私のホームページを見て、今「サビエル展シリーズ」を書いているのを知り、参考にと雑誌を送ってくれたのである。

五十年も過ぎているのに、学友としての好意が胸をうつつ。残り少なくなつた人生、人に対しては彼に習わねばと思う。

さて、神戸市立博物館にある国の重要文化財であるサビエルを描いた礼拝画を表紙にした特集記事は七ページに及び、私の断片的知識を系統的にまとめてくれていて有り難い。

短期間にキリシタン大名をはじめとして三十万人を超えるキリシタンが誕生したが、サビエルが来日して三十八年後の一五八七年、豊臣秀吉は突然、キリスト教禁止令を出した。そして十年後の一五九七年には二十六人のキリシタンが捕らえられ、長崎で処刑された。

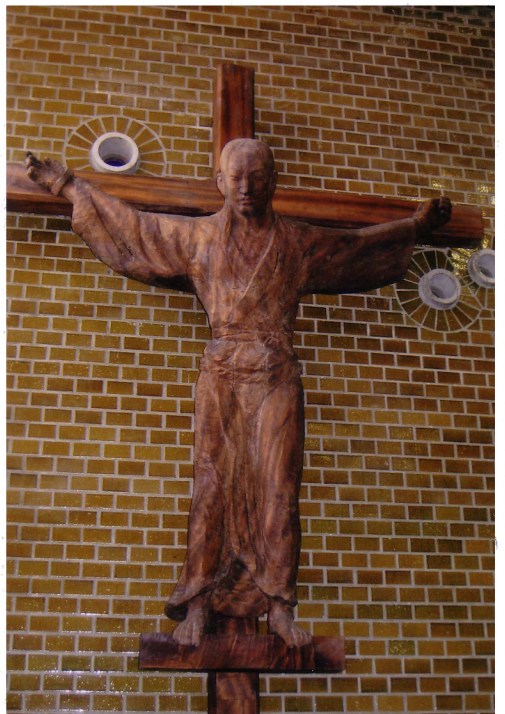
なぜキリスト教を受け入れる態度をとつていた秀吉が突然、禁教令を出したのだろうか。「歴史のミステリー」の特集記事はそれをわかりやすく検証している。

禁教令後、イエズス会の宣教師は行動を自粛したが、イエズス会に続いて来日したフランシスコ会は表面的にも活動を続け、それに対する見せしめとして二十六人が処刑された。だからそのほとんどがフランシスコ会関連者で、イエズス会は同会のパウロ三木が捕らえられた時「彼は違

う」と釈放を願ったといふ。今、長崎にある二十六聖人記念館（イエズス会運営）には十字架のパウロ三木だけ目立つ感じを受けたが、修道会同士の対立や、あらぬ中傷を秀吉に進言したものもいたらしい。しかし、一番大きな原因は、キリスト教をこのまま放置すれば、自分の対抗勢力となると考えたからのように思える。北朝鮮の独裁者が自分の後見人まで処刑した事件とオーバラップする。

いつの世も、人間の権力に対する欲望ととも、それを手中にする中で「靈魂とこしよ

長崎二十六聖人記念館のパウロ三木



送られてきた禁教特集号

「歴史のミステリー」八号で、「キリスト教はなぜ禁じられたのか？」という特集記事があった。昨年彼

のミステリー」八号で、「キリスト教はなぜ禁じられたのか？」という特集記事があった。昨年彼

のミステリー」八号で、「キリスト教はなぜ禁じられたのか？」という特集記事があった。昨年彼

のミステリー」八号で、「キリスト教はなぜ禁じられたのか？」という特集記事があった。昨年彼

のミステリー」八号で、「キリスト教はなぜ禁じられたのか？」という特集記事があった。昨年彼

のミステリー」八号で、「キリスト教はなぜ禁じられたのか？」という特集記事があった。昨年彼

のミステリー」八号で、「キリスト教はなぜ禁じられたのか？」という特集記事があった。昨年彼

のミステリー」八号で、「キリスト教はなぜ禁じられたのか？」という特集記事があった。昨年彼

のミステリー」八号で、「キリスト教はなぜ禁じられたのか？」という特集記事があった。昨年彼